



あかまつ

七飯町立七重小学校
学校だより No. 4
R 3 年 7 月 2 1 日

本物に学ぶ 25 日間を！～大切な時間とともに～

七飯町立七重小学校長 本 多 宏 至

夜空にくっきりと見える天の川や夏の大三角形、写真に残したい横津岳から昇る朝日や仁山に沈む夕日の鮮やかさ、じっと見つめたくなる小さな生き物の懸命さ、七重小校区の身近で本物の体験ができる贅沢。猛毒のあるセアカゴケグモ（北見市で発見されている）に噛まれたり、ヒアりに刺されたりすることはないと思っているが、お子さんと一緒に七重小校区や七飯町の自然を夏休みに楽しんでみてはいかがであろうか。

さて、独立行政法人国立青少年教育振興機構の調査によると、子ども時代によくほめられた人ほど、へこたれない大人になるという結果が出たようである。若者の「自己肯定感」「コミュニケーション力」「意欲」「へこたれない力」の 4 つを高めるために必要な体験活動の在り方を探った調査である。

その結果、全体的にほめられた経験が多い子どもほど、へこたれない大人に育ち、多くほめられて多く叱られた経験がある人は、さらに「へこたれない力」が強いことも分かったそうである。ほめる人が先生や周囲の人でも同じ傾向だそうだ。

上記の調査結果「ほめられて育つとへこたれない大人に」は、新聞記事（北海道新聞より）に紹介されていた内容である。子どもをどのようにほめたり叱ったりして育てていけばいいのか、大いに迷うところである。1 学期終業式の日、努力してきたことや結果を出そうと苦心してきたことを聞き出しながら、子どもを包み込んで、一番わかってくれるのはやはり家の人なんだと安心させてほしい。ほめることも叱ることも、次につなげるためのことである。

学校はこれまで以上に、子どもの成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子どもが自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められている。

自分が子どもの頃、なかなかできずに困ったことや、要領よくいろいろな課題をクリアできた場合もあったが、大人になって、「自立」「自力」を早急に子どもに求めがちではないだろうかと自問することが多くなった。「自分でやっごらん」とか「～年生になったのに、そんなこともできなくてどうするの」という大人の上から目線ではなく、教えるべきことはしっかり教えながら、子どもに寄り添っていくかわり方が大切なのだと。

夏休みを思う存分楽しもうとしている子どもたちにとって、遊びとなりそうなことは目の前に広がっている。子ども時代に遊びを通して得られた力は、「昔取った杵柄」とまではいなくても、隠れた力としていつまでも備わっていることを考えると、25 日間はとても貴重な時間といえる。

コロナ禍の夏休みではあるが、学校を離れ、地域の中でも十分に満喫した時間を過ごしてほしいと願っている。本物に触れることで実感として感じ取り、心に残ることがあれば、貴重な時間を過ごしたことといえるであろう。遊びだけでなく、家族や地域の方々とのふれあいから得られたことも、生きる力に変えた子どもたちに会える 8 月 16 日が楽しみである。